

## 不登校支援モデル事業

自分らしく、のびのび学べる多様な学びの場を!

# 不登校児童生徒の自立支援に係る地区ネットワーク会議 令和4・5年度の取組みを振り返って



子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、置賜管内でも不登校児童生徒数が増加傾向にあります。主な要因は、学業の不振や友人関係・生活リズム・家庭環境の急激な変化など多岐にわたり、それらが複雑に絡み合っている場合もあります。大切にしたいことは、**その子がどんな困難を抱えているのか**、複数の立場の人の情報をもとに**多面的に理解し、その子の思いをよく聞き**支援していくことです。子どもの SOS に周りの大人が気づくこと、**そ**

**の子の思いを中心**にして、学校・保護者・支援に関わる**関係機関が連携・協働**し、多様な学びの場や居場所を提供することなどの重要性を改めて感じます。

置賜教育事務所では、他地区に先駆けて、管内の民間支援団体代表者・市町教育委員会指導主事・県立高校代表者等が集まり、上記の会議を開催し、連携を深めてきました。不登校支援の現状や課題について共有し、その子の状況に合わせた適切な支援を、校内のスペシャルサポートルームや教育支援センター（適応指導教室）、民間支援団体等でも受けられるように、関係機関がつながり、互いの強みを生かして支援できるような体制づくりを進めています。

もちろん、すべての子どもたちにとって、学校が、居心地のよい場所、自分らしくいられる場所、毎日が楽しい魅力的な場所であってほしいと願っていますが、一方で、「あの子には、ちょっと心の休息が必要かな…」、「あたたかい関わりの中で、自信を取り戻させてあげたいな」と思うような場合もあるのではないのでしょうか。そのようなときは、その子（保護者）の思いを大切にしながら、多様な学びの場を検討していくことが、将来の社会的自立につながる場合もあります。子どもの幸せを願う気持ちはみんな同じ！不登校支援も、「**チーム学校**」で**連携・協働**していきましょう！



## ◆山形県の取組み

顔の見える連携・協働のために

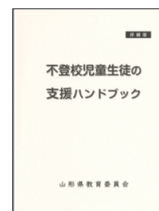
- 1 自立支援ネットワーク構築検討会議（R2～3）
- 2 自立支援ネットワーク推進会議（R4～6）  
R4 置賜地区(モデル地区指定)→ R5 県内全地区で

- 3 自立支援ネットワーク研修会（R2～6）  
R2.10 話題提供 安達 えり 氏 (NPO法人 With優)  
R4.11 話題提供 伊藤 寿彦 氏 (NPO法人 ゆにぶる)  
R5.10 話題提供 安達 えり 氏 (NPO法人 With優)

- 4 不登校児童生徒の相談支援ガイド発行（R3.3）  
教育支援センターや民間支援団体、親の会等の情報を掲載しています

- 5 不登校児童生徒の支援ハンドブック発行（R4.3）  
不登校の未然防止、学校での組織的な対応、関係機関との連携支援の事例等を掲載しています

- 6 ホームページによる相談支援機関等の情報提供（R5.11）



こちらから  
ダウンロードできます

## 各学校で不登校の未然防止に熱心にお取り組みいただきました!



### 令和5年度 不登校未然防止で効果的だったこと

- \*これまで無意識に取り組んできたことやあたたかい関わりの価値を、発達支持的生徒指導の視点から改めて確認し、**全職員**で生徒指導の実践上の視点を意識した教育活動を実践した。
- \*「子ども主体」の授業づくりを意識したことで、教師自身が、一人ひとりの学びをしっかりと見取ろうとするようになった。同時に、生徒指導の実践上の視点を意識するようになったことで、学級内での生徒指導上のトラブルも減った。(学習指導と生徒指導の一体的な充実へ)
- \*児童生徒の思いや願いを大切にしながら、児童生徒主体の活動を推進した。
- \*別室での支援体制(温かな教室環境・時間割の作成・学習支援・SC相談等)を充実させた。
- \*「不登校対策の取組宣言」を作成し、中学校区ごとに協議・振り返りを行なった。
- \*幼保小中の接続・引継ぎを重視し、児童生徒理解を**全職員**で進め、指導・支援に活かした。
- \*関係機関が集まって、個別のケース会議を開催した。(多面的な理解・次の一手の検討)
- \*SSW・SCとの連携による家庭支援、SC 講話(児童生徒対象・教職員対象)を実施した。

※R4年12月に改訂された『生徒指導提要』では、「生徒指導の実践上の視点」として「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」の4つが示されています。



### 未然防止・「チーム支援」のポイント

#### ◎新たな不登校を出さない未然防止の取組みを

- ・自己存在感を与える・共感的人間関係を育む・自己決定の場・安心安全な風土
- ・「居場所づくり」「絆づくり」「のりしろづくり」
- ・わかりやすい授業の工夫

#### ◎休みがちな子どもへの**先手必勝**の支援を

#### ◎欠席が続いている子どもへの**継続的な関わり・支援**を

- (例) \*
- \* 個別のケース会議の開催
  - \* 学校の別室・保健室における個別の相談・支援、学習支援
  - \* SC・SSW・教育相談員等による支援
  - \* ICTを活用した授業動画の配信(学習保障)



子どもの声を聴くこと  
(傾聴)や先生方の  
言葉がけが子どもを  
元気にします!



#### 深刻化する前に、どう対応するか?

#### 引きこもってしまう児童生徒をどう支援するか?

学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある

- (例) \*
- \* 教育支援センター(適応指導教室)による相談・支援
  - \* 民間支援団体による相談・支援
  - \* 関係機関(子育て支援部局・福祉部局・医療機関等)との連携による支援

置賜地区の  
全市町に設置



◎活動内容や場所を記した案内チラシの配布や広報誌等での相談窓口の紹介等も行っています!



キーワードは  
つなぐ

## 切れ目ない支援で 子どもの自立と社会参加を目指して!



2月14日「第2回置賜切れ目ない支援連携協議会」を開催しました。教育、福祉、医療、保健、労働等の関係機関の委員の方々と協議し、お互いの事業を理解するとともに、連携の大切さを再確認しました。顔の見える関係づくりや、各自治体の実態に応じた支援体制づくりが進んできました。縦や横の連携が図られてきた今、それをさらに充実・強化させていく段階に進んでいます。

上記会議で話題となったことから、今後、大切にしていきたい視点について紹介します。

### 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」 の作成の目的は、活用されることです。

作成の負担感が大きくなっていませんか？

活用に生かされるためには、客観的な事実やうまくできないことのみならず、有効だった具体的な支援の方法（どうやったらその子ができるようになったのか）、その子のよさや強み等も記載するようにしましょう。そして、支援を行った結果、その支援は子どもの安心感や満足感につながったのか、子どもの視点に立って支援の有効性を確かめましょう。

また、進学時のみならず、進級時に担任が変わる時や、教科担任間でも、引き続き共有して支援に生かしていきましょう。

### 小学1年生の学校生活・学級経営は、 幼児教育をどうつなぐかがカギです。

小学1年生の学校生活への不適応が多く見られます。それをサポートするため、早期支援や架け橋プログラムなど様々なアプローチがとられています。

ここで大事にしたいことは、園での日常の姿を学校側がよく知ることです。「10の姿がどのように育まれるのか」「トラブルはどう解決しているのか」など子ども達の様子や保育者の関わり方などを知る機会などを設けてみてはどうでしょう。

現時点での困り感だけで判断せずに、その子を取り巻く環境や（これまでとの違い）、育ち等を多面的に理解した上で、支援方法を幅広く考えていきましょう。

### 卒業後の進路選択には、 見通しをもった早期の進路指導が重要です。

義務教育終了後は進路を見守る大人がぐっと減ってしまう時期です。本人が困った時に声をあげられる力も育成しておきたいものです。

子ども自身が、進路を自己選択できるための十分な選択肢を与えられるようにしましょう。そのためには、多様な学びの場や各社会福祉サポート等への理解をすすめ、保護者にも、子どもの状況に応じて、周知しておくようにしましょう。

### すべての教職員の “特別支援教育力”の向上を!

子どもを取り巻く環境が多様化・複雑化している今、通常の学級における特別な配慮を要する子ども達は増加傾向にあり、私達教員には、子ども理解を深め、より適切に支援をしていくことが求められています。各学校では、管理職を中心とした校内支援体制づくりを進め、チーム支援の充実を目指しているところです。

特別支援学校のセンター的機能や各研修会等を生かしながら、個人として・チームとして、今後も、特別支援教育の専門性を高めていきましょう。



子どもの思いを  
大切に

支援・学び・願いを 切れ目なく つないでいきましょう。

来年度のBIG NEWS

# あの、 木村泰子先生 ついに置賜に



今年度、リニューアルした「おきたまの教育」の具体的なイメージも、より鮮明に見えてきそうです。

置賜教育事務所指導課  
のオススメ

## 令和6年度 特別支援教育研修会のご案内

講師紹介 大阪市立大空小学校初代校長 木村 泰子先生

「みんながつくる みんなの学校」を合言葉にすべての子どもを多方面から見つめ、全教職員のチーム力で「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」ことに情熱を注いで来られました。木村泰子先生は、現在全国各地で講演活動を行う等、ご活躍中です。

今回、令和6年6月6日（木）の「特別支援教育研修会」においてご講演いただくことが決まりました。当日は、オンラインでの開催となりますので、校内研修の一環として全教職員で参加いただけます。“子どもも大人も、ともに学び合える喜びを感じるような1日、1日をつくる”ために是非多くの先生方にご参加いただければと思います。

なお、木村泰子先生のお話は、『みんなの教育技術』にも連載されております。研修に参加される前に、こちらも併せてご覧いただければ幸いです。

みんなの教育技術 (URL)

<https://kyoiku.sho.jp/special/62303/>

連載

学びは楽しい

木村泰子



各学校では、来年度に向けて、年間計画を作成していることと思います。  
ぜひ6月6日（木）に、本研修会をご検討ください。大きなチャンスです。